

創刊10周年にあたり

社会福祉法人国際保健支援会
理事長 横内 定明

10年前、本誌に『創刊にあたり』と題して、社会福祉法人国際保健支援会としてどのような活動をしてゆくか、その活動の中で本誌の果たす役割について書かせて頂きました。社会福祉法人国際保健支援会の設立からは12年が経過しましたが、本誌の創刊は福祉・医療を中心とした実質的な事業活動の開始と時を同じくします。開設式の際、参列頂いた方々にお配りしたのが本誌のデビューだったと記憶しています。

2004年1月に介護老人保健施設つかまの里として、施設サービスとショートステイ・通所リハビリテーションという在宅サービスを開始し、同月に南天診療所も開設しました。同年5月にはつかまの里居宅介護支援センターも始まりました。

この10年間には、事業者にとって厳しい介護報酬の改正が3度もありましたが、通所リハビリテーションでは利用希望者が増加し、その声に応えるべく、2011年12月に定員数を30人から50人へ増員させました。又、2012年にはサービス付き高齢者向け住宅植生の宿もオープンさせ、併設するサービスとしてつかまの里訪問介護ステーションを開始しました。このように医療・福祉の事業を徐々にではありますが、広げつつ継続できているのは、様々な方のご支援とご協力があるからだと感謝の念でいっぱいです。

近年、医療と福祉が連携を取りながら、多くの方が住みなれた場所での生活をできるだけ長く送れるようにしようという声が聞かれます。地域包括ケアという世の中の流れが、ますます加速しつつあるように感じます。サービス付き高齢者向け住宅という在宅、在宅療養支援診療所である南天診療所、訪問介護サービス、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所と小規模ではありますが、多様なサービスを皆さまに利用して頂けると思います。サービス付き高齢者向け住宅では、当法人の関連事業だけでなく、他法人の訪問看護、また他の診療所からの訪問診療にも入ってもらい、介護と医療の連携の場として機能すればと考えています。

今回寄稿頂いたのは、介護と医療の連携に力を注いでいらっしゃる諸氏で、当法人の活動にもお力を貸して頂いています。寄稿者を含め、多様な分野の多様な方々にこれからもますますの助言、協力をお願いしたいと思っております。